

**第2回**  
**公共施設のあり方検討委員会**  
—明日のいなざわが輝くために—



平成24年2月9日  
稲 沢 市



0

**改革の目玉**



1

# 改革の目玉

「**教育**のまち いなざわ」・「**福祉**のまち いなざわ」をキーワードに、子育て環境を充実させ、心の豊かさを実感できる施策を提供し、これらの施策を**人口誘導戦略の柱**に据えることを提案する。

## 改革の目玉

- ① 小中一貫教育の導入
- ② 市民窓口の休日開庁
- ③ 回想法の導入
- ④ ボランティアが集う拠点づくり



2

# 小中一貫教育の導入

・小中学校**9年間の系統的な教育指導課程**を導入することによって、教職員間の連携を深め、連続した学びの中で、子どもたちが確かな学力と豊かな人間性・社会性を身に付けられるようにする。

⇒ 4-3-2制の指導課程、  
小学校での教科担当制の導入、  
複数の教職員による指導(チームティーチング) など

・同じ学校の仲間と共に進学することにより、進学時の環境の変化になじめずに不登校やいじめが急増する  
**「中一ギャップ」**を解消していく。

⇒ 児童・生徒の交流活動、  
小中連携主任の配置 など



3

## 市民窓口の休日開庁

- ・市役所の住民サービス窓口における休日開庁を実施する。

### 休日開庁

県内38市のうち29市で実施



4

## 回想法の導入

- ・高齢者が、昔使っていた道具を囲んで思い出を語り合うことにより、認知症の予防に効果があるといわれる「**回想法**」の講座を実施し、生きがいつくりの場を提供する。
- ・北名古屋市(旧:師勝町)が日本で初めて地域活動に回想法を取り入れた「地域回想法」と名付けて積極的に事業を展開しており、同様の取り組みが横浜市、氷見市、恵那市、高島市(滋賀県)、加東市(兵庫県)など、全国各地に広がっている。



5

## ボランティアが集う拠点づくり

- 現行の公共施設を活用し、ボランティア団体が活動する拠点施設を整備する。
- 具体としては、市民活動支援センター、社会福祉協議会、観光協会を当該施設に集結させて、「福祉」、「観光」をキーワードにしたボランティアの連携と融合を促し、相乗効果を高めていく。



6

## 小中一貫教育 の展開事例



7

# 学校施設及び運営体制

## 小中一貫校



小学校（1～6年生）  
中学校（1～3年生）

## 小中一貫教育校

中学校（1～3年生）



小学校（1～6年生） 小学校（1～6年生）

- ・中学校区を単位に特色ある教育環境を提供
- ・小中学校の連絡調整を担う専門のコーディネーターを配置



8

# 9年間を見通した教育課程

前期				中期			後期	
小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
学級担任制				教科担当制				

### 【各期の指導目標】

前期 基本的な生活習慣の確立や、基礎的な学力の定着

中期 学力の充実・向上を図るとともに、社会性や規範意識を培う

後期 個性と能力を伸ばし、自己実現に向けた積極的な態度を育てる

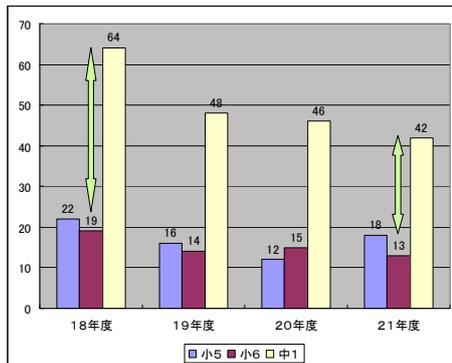


9

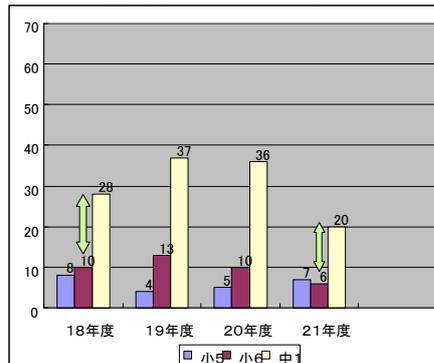
# 中1ギャップの解消に向けて

## 不登校児童の推移

宇治市（人口19万人）



稲沢市（人口13万8千人）



10

# 具体的な取り組み（1）



小学校の体育の授業を  
中学生が支援



小学校の  
運動会で  
中学生が  
吹奏楽を  
演奏



6年生がクラブ活動を体験



児童会と生徒会と一緒に募金活動



11

## 具体的な取り組み（2）



中学校教員による小学校での外国語授業



小学生にカンフー体操を教える中学生



小・中学校の教員が  
授業の現場で指導  
方法の改善を研究



教科連携教員による理科の実験風景

12

## 小中一貫教育 の課題



13

## 導入に向けた課題

### ・通学距離が遠くなる児童への配慮

通学区域の変更や学校の統合によって、学校までの距離が遠くなる児童が生じる。

#### 【対応策】

- スクールバスを検討
- スクールガードの配置



### ・教員の負担増に対する配慮

学校間の移動や交流授業のための準備など、教員の負担が増すおそれがある。

#### 【対応策】

- 教科担当教員の加配(増員)措置
- 専門のコーディネーターを配置



14

## 公共施設の 現状と課題 (追加分)



15

# 社会福祉施設



16

## 心身障害児者ふれあいの場

### 現状と課題

- ・旧祖父江町役場の建物を心身障害者の授産施設として活用。
- ・施設を運営するNPO法人が日本福祉大学のサークルと連携した交流活動「祖父江日曜学校ひばりの会」を開催。
- ・年間借地料  
1,434千円



17

# 中学校



18

# 中学校

## 現状と課題

・市内に9校設置。全学校が耐震化工事を実施済み。

・生徒数・クラス数の推計

23年度	⇒	26年度	⇒	29年度
4,041人		4,223人		3,930人
129クラス		121クラス		116クラス

今後6年間で  
111人(2.7%)の減少

・年間借地料  
稲沢中学校始め5校  
71,791千円



19

# 産業観光施設



20

## 産業会館

### 現状と課題

- ・昭和55年建設。会館に入居する稲沢商工会議所に指定管理委託。外に稲沢市観光協会も入居している。
- ・会議室等の稼働率は3割程度に止まる。
- ・商工会議所は、会館の建て替え資金として会員企業から寄付金を募っている。



21

# スポーツ施設



22

## 市民球場・市民テニスコート

### 現状と課題

- ・球場は昭和60年、テニスコートは昭和54年建設。耐震性有り。民間企業に指定管理委託。
- ・球場の利用は平日は少ないが、土日はほぼ埋まっている。テニスコートはクレートコート5面で、平日は3割程度の稼働率だが、土日はほぼ埋まっている。
- ・慢性的に駐車場が不足しており、球場の利用時には駐車車両があふれてしまうことがある。



23

## 祖父江の森テニスコート・多目的運動場

### 現状と課題

- ・温水プール、テニスコート、多目的運動場を一体的に備えたスポーツ施設。プール、テニスコートは平成10年、運動場は平成16年に建設。耐震性有り。民間企業に指定管理委託。
- ・テニスコートはオムニコート4面で人気が高く、平日夕方過ぎと土日の利用は予約ですべて埋まる状況。
- ・多目的運動場はサッカーやグラウンドゴルフでの利用が多く、ほぼ毎日何らかの予約が入っている。



24

## 市営住宅



25

# 森上団地・引揚住宅

## 現状と課題

・祖父江町住宅森上団地  
昭和29年建設 入居世帯 6戸



・祖父江引揚住宅  
昭和27年建設 入居世帯 4戸

・いずれの住宅も建築後50年以上経過し、地震等によって倒壊する危険性が高い。耐震診断未実施。

・年間借地料  
森上団地 742千円

